

# DOSHISHA REPORT



## 法人部

### ●第二十七回新島講座

第二十七回新島講座は、五月十六日と十八日、大学今出川校地至誠館で、クレアモント・マッケンナ大学のラッセル・K・ピッツァー冠飾教授であるジョン・K・ロスを教授をお招きして行われた。ホロコーストを専門的に研究されているロス教授は、ホロコーストとアメリカン・ドリームとの関わりから、最新の研究成果を踏まえて、第一回講演で「アメリカ人がホロコーストを

学ぶべき理由」を明らかにされ、それを手がかりに、第二回講演で「アメリカ人がホロコーストに学ぶべき問題」を析出された。ロス教授のご講演は、主にアメリカ人についてのものであったが、教授の透徹した考察の射程は、ホロコースト後の世界に生きる人間すべてにまで及び、その内容は、アメリカ人でなくとも引き付けられずにはいられないものであった。今回の新島講座には、大学の教職員や学生だけでなく、ホロコーストに関心を寄せている一般の方々の参加も多数あり、盛会裡に終わった。第二回



新島会館でのスペシャリスト・セミナー

講演終了後、引き続き新島会館で「アメリカ合衆国におけるホロコースト政治——その教訓と遺産——」というテーマでスペシャリスト・セミナーが持たれた。そこでは、ロス教授は、「政治」という観点から、ポスト・ホロコーストの現代に生きるわたしたちの進むべき方向を示唆された。

### ●二〇〇一年春の叙勲・叙位

同志社大学名誉教授前川道介氏が勲三等瑞宝章、同志社女子大学名誉教授瀬古一光氏が勲四等旭日小綬章をそれぞれ受章され、五月十日国立劇場大劇場で伝達式が行われた。

### ●二〇〇一年春の褒章

元同志社女子大学教授原嘉壽子氏が紫綬褒章を受章され、五月十五日、東京の如水会館で伝達式が行われた。

### ●二〇〇一年度入社式

四月四日、大学神学館礼拝堂で入社式が行われた。本年度の採用は、大学教員八人、女子大学教員六人、高等学校教諭二人、国際中学校・高等学校教諭二人、香里中学校・高等学校教諭一人、女子中学校・高等学校教諭二人、中学校教諭一人、大学職員十三人の計三十五人である。大谷實総長と野本

真也理事長から歓迎のことばが述べられ、野本理事長から一人一人に辞令が手渡された。

## 大学

### ●『現代語で読む新島襄』の世界展

学校法人同志社が創立百二十五周年を記念して出版した『現代語で読む新島襄』。新島襄への関心をさらに深めてもらおうと、この本で扱った新島の日記・原稿類の原資料や写真のパネルなど百数十点を展示し、二月十五日から五月三十一日まで一般公開した。訪れた多くの見学者たちは、展示を通して新島の志が形成されていた道筋を辿っていた。

### ●大阪就職サポートオフィスを開設

学生の就職活動支援のため、大阪市北区梅田の大阪駅前第四ビル内に、大阪就職サポートオフィスを四月二日、開設した。スタッフ二人を常駐させ相談に応じるほか、企業情報検索のためのパソコン十台、セミナーなどが開けるよう五十二席のセミナールームも設けた。学生間の情報交換や休憩などにも利用されている。なお、昨年東京

分室内に東京就職サポートデスクを設置している。

### ●香知館（知能情報センター）竣工

学術フロンティア推進事業「知能情報科学とその応用」プロジェクトの研究拠点として、京田辺キャンパスに香知館（知能情報センター）が竣工した。このプロジェクトは、生物が持つインテリジェントな方法



を工学に應用することを目的とし、二百五十六台の高速コンピュータが並列に接続された国内最大級の超並列進化シミュレータ、高速数値計算サーバ、磁気共鳴画像撮影装置(MRI)、音響心理実験設備など最新の研究装置・設備を備えている。また、超高速基幹ネットワークの敷設や、廊下の照明器具は人感センサーにより自動点灯するなど、建物内設備にも最新技術が導入されている。

### ●クラーク記念館の改修工事はじまる

今出川キャンパスにある五つの重要文化財のうち、本学のシンボリックな建物であるクラーク記念館（明治二十六年竣工）が、老朽化のため四月から改修工事に入った。外壁の落下や雨漏防止のため、応急修理を九月下旬まで行い、十月から内部使用する。その後平成十六年から六七年かけて全面改修工事を行う予定。

全工事期間を通してネットをかぶった状態となるため、インターネット上で、その美しいクラーク記念館の姿を見てもらえるよう、ホームページを開設している。アドレスは、<http://www.doshisha.ac.jp/daigaku/clarke/index.html>

# 女子大学

## ●音楽学科オペラ公演

第十四回オペラ公演が上演された。今年度は創立百二十五周年を記念して、在学生による上演を二月二十四日、卒業生による上演を二十五日に新島記念講堂で開催した。演目は、永遠不朽の名作「フィガロの結婚」。指導は同志社女子大学坂口茉莉嘱託講師。両日共多数の観客で賑わい、公演は大成功を収めた。

## ●『春立つきよの風 女子大卒業生物語』出版

在学生の執筆による『春立つきよの風 女子大卒業生物語』が出版された。本書は、短期大学部日本語日本文学科「日本語日本文学演習」担当・同志社女子大学朱捷教授二〇〇〇年度日組ゼミ生が一年掛かりで進めてきたプロジェクトの成果。「女性の生き方」をテーマに、様々な分野で活躍している本学卒業生たち取材して、リポートを書き、本の出版にいたった。一九五〇年代から現在にいたるまでの三十一人の卒業生の軌跡が記されている。

## ●ジェームズ館改修工事見学会

創立百二十五周年記念行事の一環であるジェームズ館の改修工事見学会を三月二十七日に実施。今出川キャンパスの象徴的な建物の化粧直しとあつて、本学退職者や建築学会関係者などが多数参加。設計者の説明に熱心に耳を傾けていた。



ジェームズ館で説明を受ける見学者

## ●学芸学部日本語日本文学科

### 二〇〇一年度フレッシュマンキャンプ

四月四日・五日、宇治・花やしき・静山荘で行った。新入生二百一人(欠席者三人)、上級生リーダー十二人、教職員二十人が参加。今年も源氏物語や平家物語と縁の深い「宇治」で行い、新入生たちは宇治の歴史を訪ねるウォークラリーや短歌づくりに挑戦した。新たな友達と教員を交えての登録相談やレクリエーションを通して親交が深まり、緊張の面持ちはいつしか笑顔に変わっていった。

## ●現代社会学部二〇〇一年度フレッシュマンキャンプ

四月四日・五日、リーガロイヤルホテル京都で行った。入学式を終え、期待と不安いっぱいの新入生四百二十八人、上級生リーダー二十四人、教職員二十七人が参加。教職員とリーダーが親身になって、登録や学生生活の相談にのるなど、充実した二日間であった。

## ●春季リトリート

五月十九日・二十日、同志社びわこリトリートセンターで行い、教職員を含め約七十人が参加。春名康範氏(神戸女学院中・高等部長)に「新しい時代のわたしたち」出会うこと、愛すること」と題して講演い

いただいた。グループトークングでは、心を開いて語り合い、参加者にとって貴重な二日間となった。

### ●創立百二十五周年・新制大学設置五十周年記念公開講演会

創立百二十五周年を記念して六月六日英語文学科・日本語日本文学科主催による公開講演会を新島記念講堂で開催。講師にはエドワード・サイデンスティッカー博士（コロンビア大学名誉教授）を招き、「翻訳に必要なもの、そして不可能なもの」をテーマに講演があり、盛況であった。

### ●創立百二十五周年・新制大学設置五十周年記念シンポジウム

創立百二十五周年を記念して、六月九日に宗教部主催によるシンポジウムを栄光館フアウラーチャペルで開催。パネリストは江川紹子氏（ジャーナリスト）、森岡正博氏（大阪府立大学教授）、同志社女子大学村瀬学教授、司会は同志社女子大学中村信博教授。テーマは「転換期の若者のゆくえ・出会いのかたち・ケータイ文化のなかの喪失と再生の可能性」。約七百五十人の入場があり、盛況であった。

## 高等学校

### ●入学試験

二月九日・十日  
応募者 二百四十四人（うち女子百二十人）

合格発表 二月十二日

合格者数 百六十九人（九十人）

実質倍率 一・四倍

### ●卒業式

卒業生 四百三人（二百十五人）  
三月十日

進路状況

同志社大学推薦

三百十八人（百六十二人）

同志社女子大学推薦 二人

国立大学 三十一人（十七人）

私立大学 二十九人（十八人）

### ●新入生オリエンテーション

同志社中学生 三月二十四日

入試合格者 三月二十六日

### ●入学式

同志社中学から 四月七日

三百二十五人

入試合格者 八十九人（四十人）

計 四百十四人（二百四十人）

## 同志社女子大学学芸学部 情報メディア学科開設

二〇〇二年四月

二十一世紀の情報・メディア社会において創造力や表現力を発揮できる女性の育成を目指す情報メディア学科を、学芸学部内に開設。入学定員は百二十人。

### ●これまでになかった専門科目群

専門科目は大きく三つ。メディアデザイン科目のねらいは、知識と感性、創造性を融合させ、映像作品・CG・Web・出版物・アニメ・ゲーム・電子音楽など、多様なメディアによる創造表現やデザインの領域を広げること。「文化・コミュニケーション科目」では、マスコミヤジャーナリズム、放送、広告など現代のコミュニケーションのしくみやその背景を学習。また、「ネットワーク・知識情報科目」では、インターネットによるグローバルネットワークの実現や、モバイルコンピュータ、新たな発展産業と注目される電子商取引など、情報や通信に関する技術や産業・サービスのシステムの理解と可能性を探る。

### ●実践（演習）を重視した教育

教育する側と学ぶ側が一緒になってその過程を共有する。共同作業、相互作用

## 二、三年学力テスト

四月十八日・十九日

## ●遠足

五月十五日

各クラスで自主的に決めた行き先（上桐生や川西イチゴ園など）に、それぞれ出掛けた。

## ●受験座談会

五月三十一日

京都大学や、京都府立大学など、同志社・同志社女子大学に設置されていない学部や国公立大学を志望する在校生を対象に、これらの大学に現役で合格した卒業生を招き、勉強の方法などの情報交換を行った。



## ●宗教週間

六月五日～七日

「死の絶望から生命へ」

金城重明氏

「鳥のように、花のように」

榎本 恵氏

「その人達の信仰を見て」

黒多 健氏

## ●教職員同和研修会

六月二十七日

講師 山崎雄介氏

（光華女子大学短期大学部助教役）

テーマ 「学力保障の観点から」

## ●二・三年生団体観賞

七月十一日

劇団往来 「青空のピコ」

産業廃棄物とダイオキシンなど、環境をテーマにした創作劇 同志社女子大学講堂

## ●一年生クラス合宿

七月十六日～十七日

## ●ウエスリーカレッジ（メルボルン）ホームステイ

七月二十六日～八月十一日

女子六人、男子三人の本校生徒が、マーチン・クレッグ教諭引率のもとメルボルンのウエスリーカレッジの生徒の家庭にホームステイした。九月にも同じように受け入れをしている。

によって教育の大きな成果があると考え、実践教育を重視。専任教員が一年次から四年次まで少人数の演習授業、卒業制作、個別指導、インターンシップの運営を担当。

## ●実社会と連動した教育

独自のインターンシップを推進。それぞれの講義、演習科目を実社会と連動させ、社会のさまざまな組織と接することによって知識と実践の距離を縮めた新たな教育を試みる。

## ●英語コミュニケーション教育

創立以来百二十五年にわたって貫いてきた実践的英語教育。これは、インターネットによって地球規模のコミュニケーションが求められている現代に最も必要とされている教育。外国語科目の他に専門科目である「コミュニケーション系科目」を設置。

## ●他学部・他学科目等の履修

幅広い知識と視野を身につけるために学芸学部内の他学科の科目、あるいは他学部の科目を履修することができる。同志社大学、大学コンソーシアム京都など他大学単位互換科目を履修できる仕組みも整っている。

お問い合わせ…同志社女子大学入学課

TEL(0774) 65・8811

FAX(0774) 65・8460

# 香里中高

## ●入学式

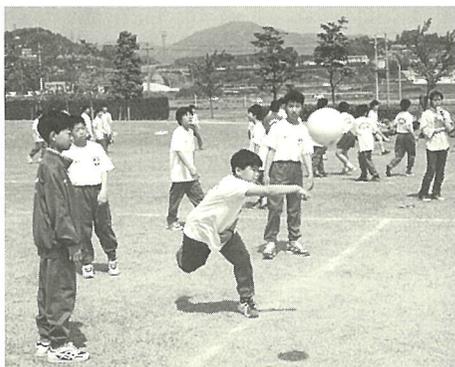
四月九日  
中学二百五十二人、高校三百八人（うち

女子四十七人）が入学。

## ●中学校祖墓参・オリエンテーション

四月十八日～二十日

JR京都駅に集合し、若王子山で開所式  
を行い校祖墓参。南禅寺からバスで浜名湖  
レックサイドプラザに到着。十九日、午前  
中はスポーツ大会。午後、カレッジソング



オリエンテーションでのスポーツ大会

の指導。航空自衛隊基地などの見学やクラ  
スミーティング。夕食後、ビーチでキャン  
プファイヤー。二十日、遊覧船で浜名湖周  
遊後、浜松市の動物園を見学。夕方、京都  
駅に帰着。

## ●高校オリエンテーション

四月二十五日～二十六日

バスで岐阜県荘川のオハヨウサンホテル  
に到着。ポイントトレッキングを楽しんだ  
後、バーベキューの夕食。クラス活動・ミ  
ーティングの後就寝。二十六日、飯盒炊き  
んの体験学習。夕方帰着。

## ●宗教教育教職員研修会

六月六日

元本校社会科教諭で現在も講師を務める  
喜多正明先生をお招きし、「学校の歴史と同  
志社への移行」と題した講演会を開催した。  
昭和十五年四月、大阪偕行社中学校として  
設立され、翌年、第二山水中学校となるが、  
終戦のため山水育英会との関係を断つまで  
の事情。昭和二十一年、香里学園中・高等  
学校として再発足するが、生徒減少による  
経営難から、有名私立大学との提携・合併  
を模索した時代。昭和二十六年七月、香里  
学園と同志社との合併後、キリスト教主義  
の学校に生まれ変わるまでの歴史など、当

時の写真や史料を使って説明を受けた。

## ●体育祭

高校 六月十一日  
中学 六月十二日

## ●教職員同和研修

六月二十日

大阪体育大学浪商高等学校の石井宏先生  
を講師にお招きし、在日韓国・朝鮮人教育  
研究委員会の活動やその成果、「共生」の前  
提として「違いを認めよう」ことの大切さ  
についての講演を受けた。

## ●学校説明会・施設見学会

六月二十三日

中学受験者対象で、毎年数百人の参加者  
がある。

## ●二〇〇二年四月から中学校も共学へ

二〇〇〇年四月、高等学校に「国際コー  
ス」二学級を新設、その二分の一を女子生  
徒とする男女共学を実施したが、中学校で  
も香里中学校・高等学校創立五十周年を機  
に、二〇〇二年四月の新入生から女子生徒  
を受け入れることとなった。三分の一にあ  
たる約八十人の予定。

## 女子中高

### ●卒業式

三月十五日

中学・高等学校合同の卒業式が行われ、それぞれの進路に向かって巣立っていった。

### ●修学旅行

中学二年生は、三月十六日から十八日の二泊三日の日程で長崎方面に、高校二年生は、三月十六日から十九日の三泊四日の日程で沖縄方面に修学旅行を実施した。

それぞれ自主研修を中心にして、平和学習等に取り組んだ。

### ●スキー学舎

三月十六日から二十日は中学三年生の希望者、三月二十日から二十四日は高校一年生の希望者を対象に、信州梅池で、スキーの講習会を実施した。

### ●入学式

四月七日

中学校二百四十三人、高等学校二百八十人を迎え、入学式を執り行った。

### ●女子部創立記念日

四月二十一日

女子部創立百二十四周年の記念礼拝をもった。礼拝の特別講師には同志社女子大学

特任教授の宮澤正典先生をお迎えし、奨励をしていただいた。

### ●春季遠足

五月十一日

中学二年生から高校三年生が各学年ごとに遠足を行い、クラスの親睦を深めた。

### ●中学一年生修養会

五月十一日～十三日

丹波篠山にあるユートピア篠山で、「なかよくなろう」を主題にして修養会をもった。修養会を通して同志社に学ぶ意義を考えた。

### ●母の日礼拝

五月十四日は高校生、十五日は中学生を

対象に、母の日礼拝をもった。カーネーション販売の収益金及び募金はハンセン病救済団体の好善社に送った。

### ●芸術鑑賞

五月十三日

長岡京記念文化会館で、劇団「銅鑼」による杉原千畝氏の活動を演じた「センボ・スギハアラ」を、午前は中学生、午後は高校生を対象に鑑賞した。

### ●球技大会

高校生は六月十一日、中学生は六月二十

六日に、球技大会を実施した。バレーボール、ドッジボール、卓球、バドミントン、バスケットボールにと覇を競った。中学、

高校ともに、梅雨の合間の好天に恵まれた一日であった。

### ●花の日礼拝

六月十五日には、聖歌隊の合唱、ハンド

ベルの演奏による賛美礼拝をもち、十六日には、花を持ち寄って、飾り、花の日の礼拝をもった。十六日は、花と募金を持って、京都市内を中心とする養護施設、老人ホーム等を訪問し、交流をもった。



## 国際中高

### ●入学式

四月五日

### ●始業式

四月九日

### ●宿泊研修

中学校 五月一日～二日

高等学校 五月七日～八日

新入生たちが、同志社で学ぶことの意味

を考えながら、新しい友達と共に生きることを学んでもらうための機会です。

## HELLO DEAR ENEMY

### 平和と寛容の国際絵本展

五月九日～十八日

日本国際児童図書評議会と日本ユニセフ協会が主催し、ドイツのミュンヘン国際青少年図書館が企画する「平和と寛容の国際絵本展」が、同組織の要請を受け、本校で開催されました。それは会場を提供すると



平和と寛容の国際絵本展

いうことにとどまらず、本校が開校以来力を入れてきた「平和教育」に直接結びつくものであり、絵本というメディアの可能性を探る意味でも興味深いものでした。

会場には、ミュンヘン国際青少年図書館が「子供に読ませたい」と選んだ世界中の絵本四十一種類、九十四作品が展示されただけでなく、まだ日本語に翻訳されていない絵本が生徒のボランティアによって翻訳され、来てくださった方々に日本語で楽しんでもらう事ができました。またポスター作製・ホームページ作り、絵本の読み聞かせとすべて生徒たちがボランティアとして参加してくれ、子供たちの持つ素晴らしい力を再認識することができました。新聞等にも紹介され、一般開放時には二百人ほどの来客がありました。

### ●花の日礼拝

六月八日

### ●高等学校球技大会、中学校遠足

六月十三日

一年生 宇治・天ヶ瀬ダム方面

二年生 嵐山方面散策

三年生 山城森林公園飯盒炊さん

高等学校はクラス対抗形式のパレーポール大会が、中学校は学年ごとに遠足を実施

しました。梅雨の時期で天候が心配されましたが、薄曇りの過ごしやすいい日となりました。教育実習生も加わり楽しい一日を過ごしました。

## 中学校

### ●入学式

新入学生 三百二十五人

四月五日

### ●新入生オリエンテーションキャンプ

四月二十三日～二十五日

二期に分けて、初めて同志社びわこリトリートセンターで開催した。

### ●新入生創立者墓参

四月二十三日、二十五日

### ●遠足（一、三年生）

四月二十五日

二年生は雨のため琵琶湖博物館の見学、三年生は滋賀県希望ヶ丘で、飯盒炊さんしながら、新クラスメートとの親睦をふかめた。

### ●生徒会委員研修会

四月二十日、二十一日

同志社びわこリトリートセンターで、生徒会執行委員と三年ホームルーム委員による研修会を実施した。

●一年生保護者のための学校生活案内の集い

五月十四日

教科・校務よりの説明と施設・クラブ見学

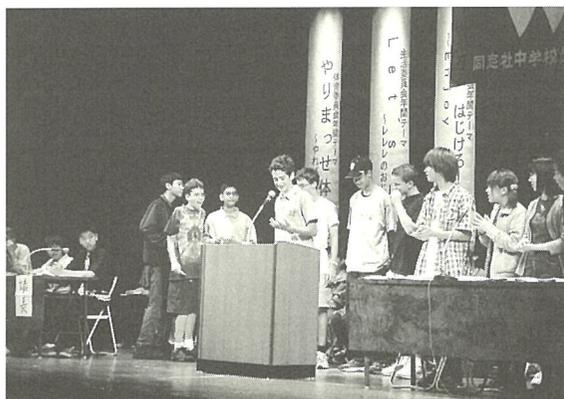
●生徒大会

五月十八日

●又エバ・スクール生との交流

五月十四日～十八日

米国サンフランシスコ郊外にある同校の中学二年生男子八人が訪問。日本語を学習しているので一クラスに一人ずつ入り、授



業及びクラブ活動に参加、生徒同士交流した。

●教育実習

五月二十九日～六月十一日

同志社大学から十一人、他大学生一人が実習した。

●春季宗教教育強調週間

六月四日～八日

「鳥のように、花のように」

榎本 恵先生（耕人塾塾長）

「一人を捜す神」

菅原 力先生（高槻日吉台教会牧師）

「その人たちの信仰を見て…」

黒多 健先生（京都葵教会牧師）

「死の絶望から生命へ」

金城重明先生（沖繩キリスト教短期

大学名誉教授、沖縄人権協会理事）

●花の日礼拝・施設訪問

六月八日

「この子どもたちと」

小橋恵子先生（西が丘教会牧師）

放課後、花をもってホザナとハンドベル

部員及び有志四十人が盲養護老人ホーム

「船岡寮」を訪問、交流した。

●英語暗唱大会

六月二十二日

●夏期キャンプ

一年生（全員参加）

七月二十一日～二十九日  
四期に分けて各期二泊三日で、宮津市由良の本校キャンプサイトで実施した。

●二年生（自由参加）

七月二十一日～八月二日

四期に分けて各期三泊四日で、長野県白馬村をベースに、唐松岳に登り、また榊池自然園を見学した。

## 幼稚園

●一月お誕生日会

一月十七日

午前中全園児と教員が歌を歌ったり、ダンスをしたり、寸劇を観た後、飲み物とお菓子をいただき、その月のお誕生日を迎えた園児をお祝いする（毎月一回行われる）。

●参観日

一月三十日～二月九日

自由あそび、各クラスの設定保育の様子を父母に見ていただいた。

●園外保育

二月十六日

全園児で「文化バルク城陽」へ出掛け、アスレチックで遊んだり、プラネタリウムを観て楽しんだ。

●お別れ運動会

二月二十三日

全園児と父母と共に、リレーや玉入れ、ダンスなどを楽しんだ。

●人形劇観劇

二月二十六日

全園児で腹話術を観て楽しい時を過ごした。

●ひなまつり会食

三月二日

全園児でおにぎり、コロツケやデザートなどを食べた。



ひなまつり

●親子クッキング

三月五日

年中組親子でキャリエールクッキングスクールへ出掛け、共に食事を作り、みんなで食べた。

●卒園礼拝・謝恩会

三月九日

午前中は年長組の親子で中学校チャペルで礼拝し、午後からは幼稚園で昼食を共にし、ゲームや歌などで楽しんだ。

●保育修了式

三月十六日

年長組(五十人)の園児が証書をいただき、お別れの言葉や歌を歌った。

●入園式

四月十二日

三歳児三十六人、四歳児十人が入園。

●イースター

四月十四日

全園児でイースターのお話を聞き、ゆで卵を持って帰りお祝いをした。

●懇談会

五月七日～十七日

二〇〇一年度の年間目標についての話や、これからの取り組みについての質疑応答、クラスの子どもの様子についての意見交換を行った。

●園児大会

五月十日

年長組の親子が植物園へ出掛け、春の自然を楽しんだ。

●同窓会

五月十八日

午後から卒園生(二年生)が幼稚園に集

まり、ゲームをしたりおやつを食べて過ごした。

●遠足

五月二十一日

大宮交通公園へ(年中組の園児)。

●四月お誕生日会

五月二十四日

午前中は全園児に対し教員が寸劇・音楽などの出し物を行い、午後からはその月に誕生日を迎えた園児と父母、教員が昼食を共にし、ケーキにローソクをつけてお祝いをした(今年度も毎月一回行われる)。

●参観日

五月二十八日～六月七日

●遠足

五月二十九日

梅小路公園へ(年少組の親子)。

宝ヶ池公園・子どもの楽園へ(年長組の園児)。

●個人面談

六月八日～十四日

新人園児と希望者対象。

●花の日礼拝

六月九日

園児たちが花を持参し、感謝の礼拝を行った。

●親子親睦会

六月十五日

全園児と父母で食事を共にし、ゲームをしたり歌を歌って楽しむ。

●開園記念式典

六月二十二日

●開園記念バザー

六月二十三日